第５回羽生市タウンミーティング内容（概要）

１　開催日時　　令和８年１０月２２日（木）
　　午前１０時３０分開会（午前１１時３０分閉会）
２　会　　場　　こどもひろば（市民プラザ内）
３　テ ー マ　　「仕事をしながらの子育て、ここが大変！
　　両立しやすい働き方と行政支援」
４　意見交換　　テーマについて、参加者との意見交換を行いました。

（１）　子育ての遊び場・居場所に関する環境について

【市民意見】

ア　他県・他市からの移住者より、以前住んでいた自治体には児童館が複数あり、夕方5時まで開館していたり毎日通える支援センターがあったりと支援が手厚かった。羽生市でもそのような場所や、乳幼児から小学生（低学年）、きょうだいで一緒に遊べる室内・屋外の遊び場を増やしてほしい。

イ　市内に公園は多いが、駐車場がない（または2～3台程度）、またはボール飛び出し防止のポールがないなど安全面に不安がある。また、雑草の放置など管理が行き届いていない公園が多く、小さい公園には遊具すらないところもある。端の地域に住んでいると、市外の公園の方が近い場合もある。

ウ　イオンはあるが金銭面に配慮した市内限定クーポン等の補助があると助かる。

【市長回答】

ア　羽生市には従来の児童館・子育て支援センターという形ではなく、「こどもひろば」や保育園ごとの子育て支援拠点を設けている。

イ　公園の遊具設置費が予算計上されてこなかった背景には、管理する自治会からのニーズが挙がっていなかったことがある。保護者の声が届いていなかったと感じており、市内多数の小規模公園すべてを直ぐに管理することは難しいが、今後は駐車場新設の難しさをカバーする循環バスの検討などを含め、子育て環境を整えていきたい。

ウ　幼児と小学生が一緒に遊べる場や室内で遊べる場所の必要性は強く認識している。また、小中学生の居場所として公民館の利用も可能である。

（２）　子育て情報の周知・取得方法について

【市民意見】

ア　知り合いがいない中、子育て支援センターの予約や利用にハードルを感じる。そもそも支援センターの存在自体を知らなかったという声もある。

イ　情報はInstagramやX（旧Twitter）などのSNSから取得している。以前の白黒のチラシ（地図）より、カラー化されたことで見やすくなった。

【市長回答】

ア　羽生市はSNSでの情報発信が弱いと認識しており、改善が必要である。

市の現状も含め、必要な情報がしっかりと届くよう情報発信を強化していく。

（３）　保育体制・制度、産前産後・産後ケアの支援について

【市民意見】

ア　0～2 歳児の保育料無償化について、仕事復帰をしても保育料が高額であるため早期に実施してほしい。

イ　産前産後の休み（保育所確保）について、公立・民間保育所に問い合わせたが「難しい・無理」との回答だった。一時保育もリフレッシュ目的で月 1 回制限等があり制度が追いついていない。仕事復帰前に向けた産後のリフレッシュ枠を作ってほしい。

ウ　産後ケアについて、利用料（宿泊・日帰り）や人気ゆえの予約の難しさがネック。生活保護受給者が無料である点に違和感を覚える声や、第 2 子以降は上の子の世話もあり宿泊利用が困難といった課題がある。

【市長回答】

ア　0～2 歳児の保育料無償化については、保育士の先生方とも話し合いを進めながら推進している。

イ　産前産後の保育期間（出産予定日から 2 か月まで）や一時保育の利用制限については、希望が重なる中で調整が難しい現状があるが、私立や認定こども園との併用なども可能となっている。

ウ　産後ケアの負担軽減や、利用しやすい形への見直しを継続して行っていきたい。

（４）　病児保育および発達支援について

【市民意見】

ア　急な発熱時の病児保育について、羽生市内では羽生総合病院のみであり、事前申請書類の多さや利用までのハードルの高さ、利用料の高さに負担を感じる。総合病院以外でも預けられる場所が増えるとよい。

イ　発達支援において、担当保健師から具体的な提案がなく、情報提供の時期が小学校入学直前と遅い。専用窓口や早期の支援策の提案を求む。

【市長回答】

ア　病児保育については、より使い勝手の良い形に改善していきたい。

〇市長総括

すべての意見に深く共感する。学校施設、公共施設、上下水道の維持管理など、限られた予算の中でのやり繰りは厳しい状況にあるが、子どもたちが笑顔で過ごせるよう、子育て支援と教育の充実を最優先に投資していきたい。

市民の皆様からいただいた貴重な意見を今後の市政に反映させるため、どのように協力を得ながらより良い形を作っていけるか、市としても子育てにしっかりと寄り添いながら検討していく。